

漢詩を学ぶ前に...

漢詩とは？ 中国語の古文である漢文で書かれた詩のことです。

では、わたしたちはなぜ漢詩を学ぶのでしょうか？

長い歴史の中での中国と日本の深い関わり...そこから考えてみましょう。

日本語は、中国から伝わった漢字が元になっています。他には、例えば故事成語、論語、漢文があります。それぞれの説明を簡潔にまとめると以下ようになります。

漢字	今から約2400年～1700年前ごろに、中国から伝わった。実は片仮名、平仮名も漢字から生み出され、「峠」「働」などの和製漢字（国字）も作られた。 ～日本語の誕生の流れ～ 漢字を中国から輸入。自分たちの言葉と同じ意味を持つ漢字を当てはめ、ものごとを書き表す。→漢字が足りないため、漢字の音も使用し（当て字にし）、万葉仮名が7世紀ごろに誕生。→複雑すぎたため、崩して簡単にした平仮名が9世紀ごろに誕生。片仮名も万葉仮名の一部を抜き出して同時期に誕生。（参考サイト：光村教育図書、学びサポート）
故事成語	昔、中国で起こった出来事から生まれた教訓が日本に伝わった。日本語の会話や文章で使われる。例）漁夫の利、矛盾、五十歩百歩、推敲、杞憂、蛇足など。
論語	今から2500年ほど前に、中国の魯（魯）という国で活躍した孔子という学者とその弟子たちが交わした言葉などが記されたもの。約500章も！人としてあるべき道、例えば、親や友だちとの付き合い方、思いやりの心の大切さなど。政治や学問のことにまでおよぶ。日本の文化にも古くから大きな影響を与えた。格言として今も生きている。 ちなみに孔子を祖とする学派の総称を儒家とよび、儒家の教えを儒教という。（参考サイト：NHK for school）
漢文	漢文は、中国語の古文（文語の文章）である。古代、東アジアの共通語として、日本や韓国、ベトナムなどに広まった。古代においては中国の文化は他の東アジア諸国に比べて圧倒的に高度であったから広まったのである。固有の文字のなかった日本が漢字を中国から取り入れ、自らの文字として長い間かかって使いこなしてきたが、その中で、漢文も「漢文訓読法」によって日本語の語順で読み下されるようになる。ゆえに、日本人は漢文を外国語とはみなさず、自国の古典の一部と思うようになった。 そして古代から近代までの長い間、漢文が日本では中心的な教養であり続けた。ことに江戸時代には漢詩文を作ることが知識人の必須条件だったと言われる。（参考サイト：コトバンク）

このように日本文化と漢文とは切っても切れない深い関係があるため、漢詩を学ぶことは至って自然なことなのですね。

さあ、いにしえの世界へ。昔の中国詩人の心情に触れてみましょう。